



2022年度通常枠PO研修

伴走支援の事例紹介



専務理事・事務局長／PO
志村はるみ

【沿革】

- 2000年～2011年 NPO中間支援団体にて、市民活動支援基金運営(のべ72団体総額1780万円の助成)
- 2012年5月 一般財団法人として設立 ※設立原資(300万円)は、個人171名25法人からの寄付
- 2013年4月 公益財団法人化(千葉県認定)
- 2016年 「いぞう寄付の窓口」開設
- 2020年 休眠預金等活用法に基づく資金分配団体に採択される(緊急枠・通常枠)

【ビジョン】

あらゆる人たちが主体的に地域の未来を担い合う社会を構築し、だれもが安心して暮らせる地域社会の実現を目指します。

【ミッション】—多様な主体とともに「志金と社会資源の流れをつくる」—

千葉県内の地域課題とその解決に取り組む市民公益活動を可視化し、多様な形で寄付を呼びかけることで多くの人々が地域づくりの取り組みに参加が可能となる環境をつくり出すことを目指し助成を行います。

【役員】 評議員6名 理事6名 監事2名 顧問1名 【職員】 事務局:4名(常勤3名・パート1名)

【助成総額】 246,902,751円／139件(2023年3月末)

1. 助成事業

地域資源の循環、地域課題解決を目的に、資金調達した意志あるお金(人・物等の社会資源)を適正な審査を経て、千葉県内の市民公益活動団体へ助成します

テーマ・地域型基金、冠基金、事業指定助成、資源仲介

2. 寄付促進事業

個人や企業からの寄付による基金創設、遺贈寄付の相談窓口など、寄付文化を創造するための様々な活動を行います

寄付付き商品、遺贈寄付、チャリティイベント

3. 連携・協働促進事業

行政・企業との架け橋、制度との架け橋、他の支援機関との連携など地域課題解決に向けた多機関の連携を促進します

地域円卓会議、課題解決WS、企業の社会貢献活動の支援(CRM、ボランティアマッチング)、情報共有の場づくり

4. 組織基盤強化

市民公益活動団体の組織基盤強化を目的に、「ファドレイジング」「マネジメント」「マーケティング」「社会的インパクト評価」等、様々な研修を行います

伴走支援の事例

休眠預金活用助成事業の概要



ーすべての若者が、誰かの力になれる社会へー

社会的養護下にある若者が円滑な社会生活を送ることができる社会包摂システム構築事業

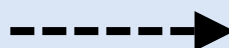
【事業名】社会的養護下にある若者の社会的孤立を防ぐための多機関連携による地域連携包摂システム構築事業

【事業実施期間】2021年4月～2024年1月31日

【助成総額】8,000万円

20歳前後において適切な保護者の関与がない
若者を取り巻く課題

- 本人の最善の利益に即したキャリア形成や
職業選択がされない
- 制度の枠組みから離れるとつながりが
途絶えてしまう
- 民間支援団体による支援活動の資金不足や
人材不足による継続性や質量の拡充が課題



適切な保護者の関与がなく強制的に自立を迫られる
15歳～30歳未満の基盤の弱い若者に対する

- ①退所前の支援(キャリア教育、生活支援等)
- ②退所後の支援(就労支援、住居支援、人材育成等)
- ③地域資源(第一次産業、地域産業、空き家、都市と
農村等)を活用した居場所/仕事の創出
- ④多様な主体(施設、事業者、NPO、学校等)の連携
促進



若者の孤立を防ぐための地域が連携したシステムの
構築

団体名	事業名	主な事業概要
一般社団法人はこぶね(船橋市)	こころをつなぐアフターケア事業 ～「あなたとともに(友)にいる」オトモダチ作戦～	<ul style="list-style-type: none"> ・児童養護施設でのインケア活動 ・オトモダチ作戦の担い手育成 ・オトモダチ作戦の仕組化 ・居場所での交流
株式会社ベストサポート(千葉市)	大人の TERAKOYA まなぶ！ つど う！つなぐ！ ～ぼくらはアシタに歩いていく～	<ul style="list-style-type: none"> ・就労支援プログラムの開発と実施 ・就職マッチングとアフターフォロー ・居場所、シェルターの提供
一般社団法人いっぽの会(松戸市)	社会へ「いっぽ」を踏み出す基盤づくり 事業～セルフマネージメント(正しく SOS を出せる力をつける)～	<ul style="list-style-type: none"> ・シェアハウスでの生活支援、地域住民との交流 ・就労支援 ・地域住民、企業向け勉強会
ちば子ども若者アフターケアコン ソーシアム(千葉市)	ちば子ども若者アフターケアネット ワーク	<ul style="list-style-type: none"> ・支援者間の情報共有、ネットワーク構築 ・若者が支援につながる仕組みづくり

- 地域課題解決に取り組む組織の基盤強化(ガバナンス・財源・人員)
 - 地域からの信頼獲得・協働の実践



困難を抱える人を支える活動の継続
市民にしかできない領域から社会全体の課題に
地域課題の解決へ

伴走支援で大切にしたい3つの柱



実行団体が事業を続けていけるように

①関係者との相互理解、リソースの共有、連携

学び合い、共有の場

②地域からの共感と信頼、支援につなげる

組織基盤強化

③各団体の特徴、状況の見極め

支援メニューの提供

学び合い、共有の場

「社会的養護経験者の自立支援に関する研修会及び事業計画共有会」

本事業の目標、実行団体の取組みについて周知、現状共有



相互理解

【参加者】実行団体ほか、千葉県、児童養護施設職員、ファミリーホーム運営者、千葉市児相、NPO法人、選考委員など33名



学び合い、共有の場

「シェルター・居場所の先駆事例に関する知見共有、研修会」

- 実行団体の共通項である住居支援、居場所づくりの先行事例を学ぶ
- 活動進捗報告、悩み相談



リソースの共有、知見の共有



学び合い、共有の場

- 事業開始1年の振り返り、団体同士で運営の工夫や苦勞を共有
- 実行団体による児童養護施設入所児・職員へのアンケート調査結果報告
- グループ意見交換



相互理解、リソースの共有
価値観の確認



組織基盤強化

「地域の共感」を「成果」につなげるための組織力強化ワークショップ

- 実行団体(任意) + 公募
- 自団体の存在意義の言語化、事業の価値を伝えられるようになる



支援者獲得、資金獲得

- 他団体のWSへの取組みが刺激に
- 「伝えること」の重要性を認識
- 地域の事業者や団体へ積極的にアプローチ
- 団体内の人間関係、雰囲気、特徴が垣間見えた
⇒ 面談の進行、個別支援の検討に



(2～3年目)実行団体の状況に合わせた支援

- 会計、報告書作成等実務面でのサポート
- チームビルディングワークショップ
- ファンドレイジング計画作成支援
- 事後評価学び合いの会

支援メニューの提供



理想	<ul style="list-style-type: none">・活動を理解する人(賛助会員)、活動に関わる人(ボランティア、連携団体)が増え、事業を継続発展させていきたい。・組織内で役割分担できる体制になる。
----	--



課題

- ①活動を発信していない
- ②会員、寄付、ボランティアを積極的に集める活動ができていない
- ③何をしてほしいのか言語化、共有されていない
- ④事業継続のための費用見直し必要
- ⑤組織内部でも共有されていないため代表者一人に負荷、悪循環

現状	<ul style="list-style-type: none">・会員、賛助会員、ボランティアがいない・代表者一人が事業を回している・事業継続のための資金調達が助成金頼み
----	---

支援内容



結果

- ①目的の共有
- ②ターゲット、期待すること等ヒアリング
- ③賛助会員募集のチラシ作成支援(構成、文言)
- ④賛助会員受入れスキーム構築支援(HP、SNSの活用、お礼状、名簿・会計管理)
- ⑤プレゼン資料作成助言
- ⑥代表者の仕事の洗い出し
- ⑦費用の見直し

トラブルの予感？！

選択肢の提示、人をつなぐ

- ・地域メディアに取り上げられる
- ・地域奉仕団体等で活動紹介の機会増加→協力の申し出増加
- ・賛助会員(0名→22名)
- ・ボランティアの増加(0名→16名)
- ・業務分担→時間の確保、人材成長
- ・協働のアイデアが生まれる

アウトカムへのつながりを意識するために進捗共有シートを活用

当初(2年前)

- アウトプットの累計が都度把握できる
- 活動が何を目的にした活動なのか、アウトカムのどこに位置づけられるのか把握しやすい

現在

- 月次の実績報告にばかり集中
- アウトプットとアウトカムのつながりの確認が疎かになってしまった(資金分配団体も)

ロジックモデルでもいいかも

一般社団法人はこぶね 月次面談

年月日: 期間: 場所(形式):

実行団体出席者: ちばのVIA出席者:

支援メニューの提供

1. アウトカム(中長期、短期アウトカム)

短期アウトカム	実施・進捗状況の把握と評価	評価・評価結果	01-03	累計 01-03 01-03まで	備考
① アウトカム1: 社会福祉施設下の若者一人一人が、自らの生活で必要な支援を受け、自立が図られること。	アウトカム1の実現、アウトカム1への評価 評価結果が良好	アウトカム1の実現に必要となる支援の提供に 一人以上のアウトカム1が実現している状態。 アウトカム1の実現に必要となる支援の提供に 一人以上のアウトカム1が実現している状態。			
② アウトカム2: 社会福祉施設下の若者一人一人が、自らの生活で必要な支援を受け、自立が図られること。	アウトカム2の実現、アウトカム2への評価 評価結果が良好	アウトカム2の実現に必要となる支援の提供に 一人以上のアウトカム2が実現している状態。 アウトカム2の実現に必要となる支援の提供に 一人以上のアウトカム2が実現している状態。			

2. アウトプット

社会福祉施設下の若者一人一人が、自らの生活で必要な支援を受け、自立が図られること。	実施・進捗状況の把握と評価	評価・評価結果	01-03	累計 01-03 01-03まで	備考
①-1 入居希望者が社会とつながりを持つことができる。	インクルーシブな環境	①-1 入居希望者が社会とつながりを持つことができる。			
①-2 入居希望者が社会とつながりを持つことができる。	インクルーシブな環境	①-2 入居希望者が社会とつながりを持つことができる。			
①-3 入居希望者が社会とつながりを持つことができる。	インクルーシブな環境	①-3 入居希望者が社会とつながりを持つことができる。			
①-4 入居希望者が社会とつながりを持つことができる。	インクルーシブな環境	①-4 入居希望者が社会とつながりを持つことができる。			
②-1 アウトカム1の実現に必要となる支援の提供に一人以上のアウトカム1が実現している状態。	アウトカム1の実現に必要となる支援の提供に一人以上のアウトカム1が実現している状態。	②-1 アウトカム1の実現に必要となる支援の提供に一人以上のアウトカム1が実現している状態。			
②-2 アウトカム2の実現に必要となる支援の提供に一人以上のアウトカム2が実現している状態。	アウトカム2の実現に必要となる支援の提供に一人以上のアウトカム2が実現している状態。	②-2 アウトカム2の実現に必要となる支援の提供に一人以上のアウトカム2が実現している状態。			

3. 予算執行状況

いずれかを選択	管理経費(確認・相談など)	直接事業費(確認・相談など)
① 経費(確認・相談など)		
② 経費(確認・相談など)		
③ 経費(確認・相談など)		
④ 経費(確認・相談など)		
⑤ 経費(確認・相談など)		
⑥ 経費(確認・相談など)		
⑦ 経費(確認・相談など)		
⑧ 経費(確認・相談など)		
⑨ 経費(確認・相談など)		
⑩ 経費(確認・相談など)		
⑪ 経費(確認・相談など)		
⑫ 経費(確認・相談など)		
⑬ 経費(確認・相談など)		
⑭ 経費(確認・相談など)		
⑮ 経費(確認・相談など)		
⑯ 経費(確認・相談など)		
⑰ 経費(確認・相談など)		
⑱ 経費(確認・相談など)		
⑲ 経費(確認・相談など)		
⑳ 経費(確認・相談など)		
㉑ 経費(確認・相談など)		
㉒ 経費(確認・相談など)		
㉓ 経費(確認・相談など)		
㉔ 経費(確認・相談など)		
㉕ 経費(確認・相談など)		
㉖ 経費(確認・相談など)		
㉗ 経費(確認・相談など)		
㉘ 経費(確認・相談など)		
㉙ 経費(確認・相談など)		
㉚ 経費(確認・相談など)		
㉛ 経費(確認・相談など)		
㉜ 経費(確認・相談など)		
㉝ 経費(確認・相談など)		
㉞ 経費(確認・相談など)		
㉟ 経費(確認・相談など)		
㊱ 経費(確認・相談など)		
㊲ 経費(確認・相談など)		
㊳ 経費(確認・相談など)		
㊴ 経費(確認・相談など)		
㊵ 経費(確認・相談など)		
㊶ 経費(確認・相談など)		
㊷ 経費(確認・相談など)		
㊸ 経費(確認・相談など)		
㊹ 経費(確認・相談など)		
㊺ 経費(確認・相談など)		
㊻ 経費(確認・相談など)		
㊼ 経費(確認・相談など)		
㊽ 経費(確認・相談など)		
㊾ 経費(確認・相談など)		
㊿ 経費(確認・相談など)		

- 実行団体との関係性
オンラインで始まったので関係づくりに時間を要した
何気ない会話、つぶやき拾いは大事
- 事業設計図(ロジックモデル)の重要性
共通理解をするためにもしっかりつくり、活用したかった
- 多様な場づくり、資源の活用
ニーズを見極めた企画とタイミングが大事
- つなぐための情報収集(地域の資源を知ること)と活用(組み合わせ)が必要